

先天性耳瘻孔ノ頻度並ニ其遺傳ニ就テ

金澤醫科大學法醫學教室(古畑教授指導)

金澤醫科大學石川外科教室(石川教授指導)

研究科學生 醫學士 今 村 昌 一

Schoichi Imamura

(昭和12年10月12日受付 特別掲載)

内 容 目 次

第1章 緒 言	第3節 先天性耳瘻孔ノ對稱性ニ就テ
第2章 調査成績	第4節 先天性耳瘻孔ノ頻度ニ就テ
第1節 先天性耳瘻孔ノ存在箇所ニ就テ	第5節 先天性耳瘻孔ノ遺傳ニ就テ
第2節 先天性耳瘻孔數ニ就テ	第3章 結 論
	引用文獻

第1章 緒 言

Fistula auris congenita ハ Hensinger ニヨツテ初メテ報告サレタモノデ、コノ成因ニ就テハ色々ノ説ガアルガ、大體ニ於テ Fistula auris congenita ハ胎生時ニ耳殻ヲ發生スベキ第一腮溝ガ完全ナル發育ヲ遂ゲズシテ癒着不全ヲ來タシタ結果生ジタモノデアルト言フノガ諸學者ノ主張スル有力ナ説デアル。

先天性耳瘻孔ノ研究者トシテハ Hensinger, Virchow, Trötsche, Beer, König, Buruelle, schwarze, Pfluger, Albert, Broman, Gruber, Denker, Urbantschitsch, Gradenigo, His, Kummel, Klatz, Paget, Hartmann, Eyle, Ole Bull, Bauer, J. U. Stein, C., Starkenstein, E., Ruttin, E., Schüller, J, Siemens, H, W., 衣川, 永井, 根尾, 田中, 藤原, 吉川等ガ舉ゲラレル。

余ハ小學兒童1500名ニ就テ Fistula auris Congenita ノ有無ヲ検査シ併セテコノ遺傳關係ヲ家系的ニ調査シタノデ其成績ヲ報告スル。

第2章 調 査 成 績

第1節 先天性耳瘻孔ノ存在箇所ニ就テ

通常先天性耳瘻孔ノ存在箇所ハ耳輪脚前方耳珠前上方デアアルガ、時ニハ耳輪脚、耳輪邊緣對迎珠、耳垂ニ於テモ之ヲ發見スルコトガアル。余ハ耳珠前ニ存在スルモノ44例、耳輪脚ニ存在スルモノ10例、耳輪邊緣ニ存在スルモノ18例、合計72例ヲ見タ。

第2節 先天性耳瘻孔數ニ就テ

先天性耳瘻孔ハ一般ニ片側ニ1個存在スルノガ普通デアアルガ稀ニハ2個、3個又ハソレ以

上存在スルコトガアル。

余ハ單發性ニ存在スルモノ 68例

多發性ニ存在スルモノ 4例ヲ見タ。

コノ中後者ニ屬スルモノハ、片側ニ2個存在スルモノ(3例)、片側ニ3個存在スルモノ(1例)等デアアル、諸家ノ成績ト比較シタモノガ第1表デアアル。

第 1 表

分 類 報 告 者	例 數	兩側性 ニシテ 對稱	兩側性 ニシテ 非對稱	單發性 ノモノ	多發性 ノモノ	片側デ 2個	片側デ 3個	兩側デ 3個	兩側デ 4個	兩側デ 6個
根 尾						3	1	6	4	0
〃	〃				30	9	0	11	9	1
根尾、藤原	〃	14	5	43	8	3	0	4	1	0
今 村	〃	19	1	48	4	3	1	1	0	0

第3節 先天性耳瘻孔ノ對稱性ニ就テ

第 2 表

先天性耳瘻孔ハ片側ノミニ存在スル場合ト兩側ニ存在スル場合トガアル。孔數モ左右同一ナルコトモアリ、異ナルコトモアル。存在部位ニ於テモ同様デアアル。余ノ調査ニ於テハ、片側ニノミ存在スルモノ32例、兩側ニ存在スルモノ20例アリ、後者ノ出現率ハ前者ノソレヨリモ多イ。第2表ハ諸家成績比較ヲ示ス。

片側ニノミ存在スルモノヲ孔數、存在箇所等ヨリ分類スレバ次ノ如クデアアル。即チ

報 告 者	例 數	片側性	兩側性
Onodi	48	41	7
Weichmann	80	60	20
Urbantschitsch	12	9	3
平 川	35	26	9
根 尾	86	68	18
根 尾	51	32	19
今 村	52	32	20
計	364	278	86

1) 耳輪脚上ニ1個ノ瘻孔ヲ有スルモノ 6例 (男子、女子共ニ3例宛)

2) 耳珠前ニ1個ノ瘻孔ヲ有スルモノ 13例 (男子7例、女子6例)

3) 耳珠前ニ2個ノ瘻孔ヲ有スルモノ 2例 (男子ノミ2例)

4) 耳珠前ニ3個ノ瘻孔ヲ有スルモノ 1例 (男子ノミ1例)

5) 耳輪邊緣ニ1個ノ瘻孔ヲ有スルモノ 10例 (男子8例、女子2例)

同様ニ兩側ニ瘻孔ヲ有スルモノニ於テハ

1) 兩側共耳輪脚上ニ1個ノ瘻孔ヲ有スルモノ 2例 (男女各1例)

2) 兩側共耳珠前ニ1個ノ瘻孔ヲ有スルモノ 13例 (男子11例、女子2例)

3) 兩側共耳輪邊緣ニ1個ノ瘻孔ヲ有スルモノ 4例 (男子、女子各2例宛)

4) 片側ガ耳珠前ニ2個、他側ガ耳珠前ニ1個ノ瘻孔ヲ有スルモノ 1例 (男子ノミ)

第4節 先天性耳瘻孔ノ頻度ニ就テ

a) 性 別

先天性耳瘻孔ノ出現率ハ女子ヨリ男子ニ多イコトハ諸家ノ報告スル所デアアルガ、余ハ男子

1500人中51例(3.4%), 女子400人中21例(5.25%)ヲ見, 女子ハ男子ヨリ多カッタ.

b) 左右別

先天性耳瘻孔ハ余ノ調査デハ右側52例, 左側20例ヲ見, 右側ニ多ク現レテキタ.

第3, 4, 5表ハ先輩諸家ノ成績ト比較シタモノデアル.

第 3 表

報 告 者	右	左
Weichmann	19	41
Onodi	25	16
平 川	14	12
根 尾	33	35
根 尾・藤 原	13	19
今 村	52	20

第 4 表

報 告 者	男 子			女 子		
	調査數	例數	%	調査數	例數	%
根 尾	424	19	4.4	338	19	6.0
根 尾	—	—	—	150	11	7.3
根尾・藤原	306	29	9.8	229	22	9.6
今 村	1500	51	3.4%	400	21	5.25

第 5 表 先天性耳瘻孔ノ頻度

報 告 者	種 別	調査人員	出 現 例	百 分 率
Urbantschitsch		2000	12	0.45%
Onodi	兵 卒	3200	48	1.5 %
永 井		1720	13	0.75%
平 川	滿 鐵 業 員	1066	35	3.3 %
根 尾	沖 繩	1115	86	7.7 %
田 中		877	79	9.03%
	非血族結婚	815	76	9.32%
	血 族 結 婚	62	3	4.83%
根 尾	初 生 兒	1776	180	10.13%
根 尾・藤 原	初 生 兒 { 男	306	29	9.8 %
		229	22	9.6 %
吉 川・田 中	初 生 兒	1492		21.4 %
		1438		19.95%
今 村	ソ ノ 母	1500	51	3.40%
		400	21	5.25%
		1900	72	3.79%

第5節 先天性耳瘻孔ノ遺傳ニ就テ

先天性耳瘻孔ノ遺傳ニ就テハ, Urbantschitsch, Paget, Schwabach, Klatz, Bauer u. Stein, Hartman, Eyle, Starkenstein, Schüller, Ruttin, 久保(猪)教授, 根尾(敏尾), 吉川(二城), 田中(民夫), 田中(一弘)等ノ報告ガアル. 之等諸氏ノ意見トシテハ先天性耳瘻孔ハ遺傳性ヲ有スル點ニ於テ一致シテキルガ, 只ソレガ如何ナル遺傳型式ヲトルカマ不明デアル.

余ハ先天性耳瘻孔ヲ有スル兒童ノ兩親及ビ其同胞ニ就テ瘻孔ノ有無ヲ調査シタ. 之等遺傳關係ヲ表示スルト第6, 7表ノ如クデアル.

第 6 表

兩親ノ 組合セ	家族數	子 供						合計
		男 子		女 子		男 女 合 計		
		■	□	●	○	■ + ●	□ + ○	
O×O	37	31	49	17	41	43(34.78%)	90(65.22%)	138
F×O	13	19	12	8	7	27(58.70%)	19(41.30%)	46
X×O	2	2	5	0	0	2(28.57%)	5(71.43%)	7
X×X	1	1	0	1	0	2(100.0%)	0	2
合 計	53	53	66	26	48	79(40.93%)	114(59.07%)	193

■・●……Fistula auris congenita ヲ有スルモノ F

□・○……F. a. c. ヲ有セザルモノ O

F. a. c. ノ不明ナルモノ X

第 7 表

	F. a. c. ヲ有スルモノ	F. a. c. ヲ持タヌモノ	合 計
兩 親	13(12.75%)	89(87.25%)	102
子 供	79(40.93%)	114(59.07%)	193
合 計	92(31.19%)	203(68.81%)	295

之ヨリ

1) 両親共ニ耳瘻孔ヲ持タヌ家族ガ37家族デ、之等両親ノ組合セヨリ138人ノ子供ガ生レ、ソノ中瘻孔ヲ有スルモノ48人(34.78%)デアル(男子31人、女子17人)。

2) 両親ノ中片親ガ瘻孔ヲ有シ、他ノ片親ガ之ヲ持タヌ組合セ家族ガ13家族アリ、ソノ間46人ノ子供ガ生レ、瘻孔ヲ有スルモノ27人(58.7%)デアル(男子19人、女子8人)。

3) 両親ノ片親ガ不明、他ノ片親ニ瘻孔ノナイ組合セ家族ガ2家族アリ、7人ノ子供ガ生レ、ソノ中2人丈ガ瘻孔ヲ持ツテキル。

4) 両親共ニ瘻孔ノ有無ハ不明ダガ子供ニ瘻孔ヲ有スル家族ガ1家族アル。

以上ノ家系の調査成績ヨリ両親共ニ瘻孔ヲ持タヌ家族ノ組合セヨリモ、両親ノ中イツレカ片親ニ瘻孔ヲ有スル家族ノ組合セカラハ、子供ニ瘻孔ヲ有スルモノガ多ク生レ得ル傾向ヲ見ル。コノ點ヨリ瘻孔ハ遺傳性ヲ有スルコトガ認メラル。又両親ニ瘻孔ガナクテモ、之等両親ノ組合セカラ子供ニ瘻孔ヲ有スルモノガ生レルコトカラ瘻孔ハ劣性遺傳ヲナスモノト考ヘラル。又家系の調査ニヨリ該遺傳ハ伴性遺傳ヲナスモノデナイコトヲ知ツタ。又瘻孔ノ存在箇所モ大體ニ於テ患側ノ遺傳ヲナスコトモワカツタ。

第3章 結 論

余ハ小學兒童1900人(男子1500人、女子400人)ニ就テ先天性耳瘻孔ノ有無、及ビ瘻孔ノ家族の調査ヲナシタガ、茲ニ結論ヲ下スナラバ次ノ如クデアル。

1) 先天性耳瘻孔ハ耳珠前ニ一番多ク現レ耳輪脚之ニ次ギ、耳輪邊緣ニハ少イ。

- 2) 先天性耳瘻孔ハ片側ニ1個有スルモノガ一番多ク、2個又ハ3個有スルモノガ稀デア
ル。
- 3) 先天性耳瘻孔ノ片側ニノミ存スルモノ(32例)ハ兩側ニ存スルモノ(20例)ヨリ多イ。
- 4) 先天性耳瘻孔ノ頻度ハ男子ヨリ女子ニ多イ。右側ハ左側ニ比ベテ斷然多イ。
- 5) 先天性耳瘻孔ハ遺傳性ヲ有シ、劣性遺傳ヲナスモノノ如ク考ヘラレル。該遺傳ハ患側
ノ遺傳ヲナスガ、伴性遺傳ヲナサズ。而シテ其遺傳型式ハ複雑ナモノト考ヘラレル。

引用文獻

- 1) **Politzer**, Lehrbuch d. O. Heilkunde. 1901, s. 667. 2) **Urbantschitsch**, Über Fistula
auris cong. Monats. f. O. No. 7, 1877, s. 85. 3) **Onodi**, Über Kongenitale Ohrfisteln, Arch.
f. O. Bd. 102, 1918. 4) **Benesi**, Zur Klinik d. kongenital. Missbildungen d. Gehörgangs, ms-
chr. Ohrenheilk. No. 55, 1921, s. 531. 5) **Phillips**, Diseases of the Ede, N. and. T. s145.
- 6) **Bruckun**, Beiträge zur Statistik d. Ohrkrankheit Archiv. f. O. 20, 1884, seit. 81. 7)
Denker, Kahler, Handbuch d. H. Nuo. Heilkunde 8) **衣川**, 大日本耳鼻咽喉科會會報第
28, 59頁. 9) **永井**, 大日本耳鼻咽喉科會會報. 10) **平川**, 二三ノ耳翼畸形, 實驗醫報.
- 11) **久保(猪)**, 臨床的耳鼻咽喉科學. 12) **根尾**, 沖繩縣ニ於ケル先天性耳瘻孔ノ統計的觀察.
耳鼻咽喉科, 第4卷, 2號, 6頁. 13) **田中**, 先天性耳瘻孔ノ遺傳ニ就テ. 耳鼻咽喉科, 第4卷,
8號, 990頁. 14) **根尾**, 初生兒ニ於ケル先天性耳瘻孔ノ統計的觀察. 耳鼻咽喉科, 第5卷, 11號,
62頁. 15) **根尾, 藤原**, 初生兒先天性耳瘻孔統計. 耳鼻咽喉科, 第6卷, 11號, 50頁. 16)
吉川, 田中, 先天性耳瘻孔ノ幼兒及其母ニ於ケル統計的觀察. 耳鼻咽喉科, 第8卷, 2號, 64頁.
- 17) **Bauer, J.**, Vorlesungen über allg. Konstitution u. Vererbungslehre 2. Auf, 1923. 18)
Bauer, J. u. Stein, C., Konstitutions-pathologie in der Ohrenheilk. 1926. 19) **Bauer, E.**,
Fischer, E. und Lenz, F., Menschliche Erblichkeitslehre. Münch. 1927. 20) **Gradenigo**,
Missbildungen der Ohrmuschel Arch. f. O. Bd. 34, 1893. 21) **Marx, H.**, Die Missbildungen
d. Ohres. 1911. 22) **Darl**, Die Missbildungen d. Ohres. (Denker-Kahlers Handbuch Bd. 6,
1926.). 23) **Ruttin, E.**, Zur Frage Fistula auris cong. und der Auricular-anhänge (W. m. W.
Jg. 77, Nr. 31, 1927.). 24) **Schüller, J.**, Zur Vererbung d. Fistula auris cong. u. Aurical cong.
(W. m. W. Jg. 79, Nr. 4, 1929.). 25) **Siemens, H.W.**, Einführung in die allg. u. Speziell
Vererbungs-Pathologie d. Menschen 2. Aufl. 1923. 26) **Starkenstein, E.**, Über die Vererbung
einer branchiogene Fistel (Med. kl. Bd. 24, Nr. 18, 1928.). 27) **久保(猪)**, 診断ト治療臨時増
刊, 「疾病治療ト體質」, 1927.